中央公民館だより

平成 28 年４月１日発行
三原市中央公民館
三原市円一町２丁目３番１号
TEL 0848-64-2137　FAX 64-0137

年に一度の生涯学習大展示・大公演!!

平成 27 年度 三原市中央公民館作品展示・学習発表会開催

去る３月５日（土）～６（日），中央公民館において，１年間の生涯学習の成果を披露・交流する作品展示・学習発表会を開催しました。展示 35，舞台発表 17，体験１（茶道）の計 53 団体による発表がありました。限られた時間と空間の中で，創意工夫して実に多彩な作品を出展いただき，また日頃鍛えた技能や演技を惜しみなく披露していただきました皆様に深く感謝いたします。併せて，終日当館にお運びくださり，熱心にご観覧いただきました市民の皆様に厚くお礼申し上げます。

本年度の特徴は，２日目の中講堂での舞台発表を午前のみならず，午後にも設定したことです。主催講座『人形劇創造講座』において，劇団が五つ立ち上がり，初公演を兼ねさせていただきました。幼児から高齢者に至るまで，約 80 名の幅広い年代の観客が見守る中，日頃練習してきた演技を披露しました。

ロビー展示風景

フラダンスの発表

しの笛の発表

人形劇の発表

主催講座初の出前公演

人形劇団 大和小学校，西幼稚園訪問!!

学びと活用…最近の生涯学習における課題やテーマの一つになっています。ただ単に学んで趣味・教養のみにとどめることなく（もちろんそれも大切なことですが），学んだことを活かして地域の活性化やまちづくりの一助にしていこうという訳です。子育て支援や新たな二次的な学びにもつながります。

中央公民館でも，この度，主催講座「人形劇創造講座」の受講者有志による初の出前公演!?を行いました。３月９日には，新園舎の落成と卒園式を前に，西幼稚園へ，また，３月 11 日には，大和小学校へそれぞれ伺いました。

何分，学習途上で不慣れな面もあり，至らぬ点も多々ありましたが，多くの皆様にご静観いただき，これも一つの実績ととらえています。

発表の機会を与える労をとっていただきました方々に，感謝とお礼を申し上げます。今後とも，いっそうの研鑽を積んでまいりますので，皆様のご支援をお願いいたします。

竣工した西幼稚園舎

人形劇サークル「ぽんぽこ」
『ぶんぶくちゃがま』

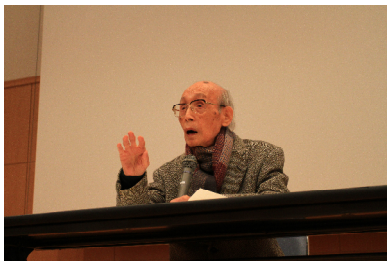
人形劇団ドロップス『まじょのくつ』

ドキュメンタリー映画 『かすかな光へ』が語るもの －3/10 上映会参加報告－

～三原市名誉市民 教育研究者・大田堯先生の「生きるとは，学ぶとは」～

この映画は教育研究者・大田堯氏の日本の社会と人間を見つめ，「生きるとは，学ぶとは」を問い続ける姿を描きだしたものです。大田氏は 1918 年生まれ，旧豊田郡船木村出身の 98 歳，今年白寿を迎えられました。数々の団体の代表を歴任され、東京大学名誉教授，都留文科大学名誉教授であり，三原市名誉市民でもあります。2001 年私財を提供され，公設民営の「ほんごう子ども図書館」や近隣のフィールド・ミュージアム「子ども広場なんじゃもんじゃ」の実現にも尽力されました。

映画の冒頭にご自身の体験された，一兵卒として生と死の交錯した漂流の 36 時間が映し出されました。南方戦線に送られる輸送船の魚雷による海没！筏で漂流しなんとか生き延び，セレベス島へ上陸。そこで生きていくためのすさまじい経験をされます。生活力のある人間と頭でっかちの自分とのギャップを体感し，自分の存在価値を問うほどの劣等感を持たれたそうです。



上映後，講話される大田先生

「学問とは何か」「生きるとは何か」命とは・・。教育とは指示して育てるのではなく，自ら気付き学ぶもので，それは自然の中で共存するすべての生き物との交信や経験の中で育っていくものではないかと気付かれたそうです。自身の物事の考えの核となっているものは，命。命あっての物種であり，物の豊かさや便利さが優先される中，根底にはいつも命がなくてはならないと訴えてくる映画でした。

映画鑑賞後に先生の講話がありました。生きるとは…，自己の内からくる力と，人(相手)の外からくる力の折り合いをつけないと生きてはいけません。この折り合いをつけ，外（他者）との関わりを持つことで自分が変化していく可能性を持っていると言われました。ひとりひとり違った DNA を持ち，自己中心に生きているのが生き物の特徴であるのはしかたがないことではあるが，他者との関わりを持たずしては生きられないのが，また生き物の特徴であると。その命と命の響き合いをつくること(人と人との響き合い)が幸せということではないでしょうか，生命あるものの絆の再生をめざしましょうと結ばれました。

ほんごう子ども図書館

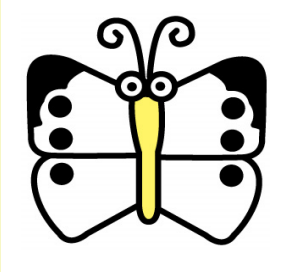
ちょうど 5 年を迎える東日本大震災の前日に，命と絆に向き合い考えることができた貴重な時間をいただきました。

編集後記

待ち望んでいた春がやっと到来しました。

二十四節気の啓蟄（3 月 6 日～3 月 20 日）の最後の 5 日間（3 月 16 日～3 月 20 日）は，七十二候の一つで「菜虫化蝶（なむしちょうとけす）」と言い，青虫が羽化する頃だそうです。

実は，暖冬のせいか，中央公民館の玄関前では，ハボタンのモンシロチョウの羽化が 1 月中旬に見られました。一年で一番寒い大寒の時季の出来事でしたので，びっくりしました。



しかし，極めつきの驚きは，先日の新聞記事。これら昆虫などが花粉を運ぶことでもたらす市場価値は，国内では年間 4700 億円，世界では実に 66 兆円だそうです。この恩恵を考えれば，たかが虫などとぞんざいには扱えません。

さらに驚愕の事実があります。…地球上の生物は，175 万種。その内，100 種ほどが日々絶滅しているとのこと。その頂点に立つ人類の仕業が大であるらしい。

万物の息吹の感じられるうららかな春のありがたさとともに，このことに，今一度，思いをはせてみたいものです。

お問い合わせ・ご相談は，三原市中央公民館(TEL0848-64-2137 FAX64-0137) 生涯学習相談員 村上・中山まで